

令和5～6年度 西城山小学校学力向上プラン

【学校教育目標】

夢や希望の実現へ向け、生涯を通じて学び、国際社会に貢献できる、徳・知・体調和の取れた個性豊かな児童の育成
～みんなでつくる にししろやま～

【めざす児童像】

○学びあう子

- ・目標を立てて学ぶ子
- ・意欲的に学習に取り組む子
- ・学ぶ習慣を身に付けている子

○おもいやりのある子

○元気な子

○きまりを守る子

【全校目標】

- ① 勉強が好きと感じる児童→8割以上
- ② テスト等評価資料正答率における国語・算数の平均正答率
学級平均9割以上

学力向上のための取組

1. 「西城山学びスタンダード」「授業改善メソッド」「読解力育成プラン」の考え方を基本とした実践
2. 目的や方法を明らかにした対話指導
3. 安心して発言できる支持的風土の醸成
4. 学力テストの分析と検証・改善
5. 本校の実態に応じた「学習のきまり」の徹底「家庭学習の手引き」の活用
6. 基礎学力の定着（キュービナの活用）
7. 関心意欲を高める教材の工夫開発
8. 読書の奨励（隙間読書の推進）
9. 国語辞典の活用、辞書を引く習慣付け
10. 横断的な学習の成果を生かす場の設定（総合、特活、交流、地域行事）

【研究主題】

自分の思いや考えをもち、確かな学力を身に付ける子どもの育成
「できた」「わかった」の笑顔あふれる授業を求めて
～読解力を育成する研究を通して～

【重点的な取組】

◎学習過程の改善

- ・「めあて（課題）」と「まとめ」を明確に位置付け、子どもに届く授業
- ・課題解決のためのねらいに即した対話活動や書く活動を重視する授業
- ・図や表の役割やよさを理解して活用する力、相手意識や目的意識をもって説明できる力の育成（系統的、継続的指導）

◎基礎・基本の定着

- ・スキルの計画的運用
- ・AIドリルの活用
- ・学力向上プランの見直し、検証

◎読解力の育成

- ・6つの問題分野（特に「係受け解析」「照応解決」「イメージ固定」「具体的同定」）を位置付けた授業
- ・教師の発する言葉や提示した文章が、教師の意図通りに子ども達に伝わる工夫
- ・語彙力、漢字力、構文力を低学年から身に付けさせる取組（低学年からの国語辞典活用・辞書を引く習慣付け）
- ・隙間読書の推進（いつでも本を手にとることができる環境）

【児童の実態】

〔授業・家庭学習から〕

- 音読や漢字学習など与えられた課題には真面目に取り組む。
- クロームブックを使った学習には、意欲的に取り組む。
- めあて→思考→まとめといった学習の流れが定着し、ノートに自分の考えをまとめたり、意見交換をしながら学習を進めたりできるようになってきた。
- △語彙が少なく、長文を正確に速く読むことができない児童が多い。
- △読むこと・書くことに時間がかかり、抵抗を示す児童が多い。
- △挙手して自分の考えを説明することに消極的な児童が一定数いる。

〔全国学力調査・県学力調査の結果から〕

<国語>

- 5年：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表す問題の正答率が低い。
- 6年：目的に応じて、文章と図表などを結び付けながら必要な情報を見つける問題の正答率が低い。時間が足りなかったためか問題後半に無答率が増えている。

<算数>

- 5・6年：全体正答率は、全国平均、県平均を上回っているが、両学年共に図形領域に苦手意識が見られる。

